

職員オススメ本 11月



「三人書房」 柳川 一／著 東京創元社

東京・本郷区駒込団子坂に、弟である通、敏男と共に「三人書房」という古本屋を営む平井太郎、のちの江戸川乱歩の元には、大女優松井須磨子の死の真相、浮世絵の贋作をめぐる事件など様々な謎が持ち込まれる。大正時代を舞台に宮澤賢治、横山大観、高村光太郎等実在の人物を登場させた5編の連作ミステリーです。



「前の家族」 青山 七恵／著 小学館

賃貸マンションに住む小説家の猪瀬藍は、借金をして家を買おうと思いつく。物件探しを始めてから六年経った今日、暮らしているマンションから徒歩一分、築十二年、2LDKのマンションを見つける。売主の四人家族、小林家が居住中に内見に行き、購入を決断。リフォームし、新たな生活に心躍らす藍のところにある日、小林家の子どもや奥さんまでもが遊びに来るようになり、藍自身も新築一戸建ての小林家に遊びに行くなど親密な関係になっていくのだが……。

物件購入をきっかけに思いもよらない方向に巻き込まれていくミステリー小説です。



「冥婚弁護士 クロスオーバー」

夏原 エキジ／著 角川書店

新米弁護士の吾妻祐一には、人に言えない秘密がある。若くして亡くなった幼馴染・琴子と『冥婚』（生者と死者の結婚）し、一緒に暮らしていること。故郷・天咲村の習わしで、村の巫女だった琴子が未婚のまま亡くなったため、死者の魂を慰めるべく生者と婚姻関係を結ばせるというものがあり、その相手に何故か祐一が指名されたのだが、詳しい理由は隠されたまま。

ある日、高校以来長らく帰っていなかった故郷へ帰省した祐一は、自分の冥婚の真実を知るところとなる。